

講義録レポート

講義録コード

19-22-4-203-01

講 座	建設業経理士検定講座	科目①	財務分析
目標年	2022年9月合格目標	科目②	的中答練
コース	1 級コース	回 数	1 回
		通算回数	1
用 途	ビデオプース ・ 集合DVD WEB通信 ・ DL通信 ・ DVD通信 ・ 資料通信		

講師名	庄司 直貴 先生	内 訳	板書枚数	枚	※レポート 含まず
			補助レジュメ枚数	枚	
			その他(下記)	枚	

授業構成	答練 90 分 → 解説 67 分		
実施テスト	○ 有 ・ 無		
対応テスト	<ミニテスト>		
	<答練・演習>		的中答練 第1回
使用教材	●基本テキスト テキスト P. ～ P.		
	●レジュメ		

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネットにアップロードする等の著作権を侵害する行為は法

TAC建設業経理士検定講座

試験概要

第 1 問	理論記述	20 点 (20 分)	}	×60% = 21 点 (30 分)
第 2 問	理論穴埋	15 点 (10 分)		
第 3 問	P/L、B/S 項目推定	15 点 (15 分)	}	×80% = 52 点 (50 分)
第 4 問	生産性分析	20 点 (10 分)		
	損益分岐点分析			
第 5 問	指標 10 個 + 穴埋	30 点 (25 分)		
計				73 点

第 1 問

～分析について説明

・定義

・具体的な分析指標の名称 → ～に対する～の割合 → ～を示すもの

・値が大きい (小さい) ほうがいい

第 3 問

・関連データを算式にする

・以下の算式の数値のうち、当初不明なものは太字で示している。算式中、不明な数値が一つしかない固定比率を起点として解いていく (金利負担能力、経営資本営業利益率も不明な数値が一つしかないので先に求めてもよい)。

$$\text{総・売・総・率 } 0.072 = \frac{\text{完・工・総}}{\text{総・資 } 180,500} \quad \therefore \text{①完・工・総} = 12,996$$

$$\text{未・工・収・比 } 0.75 = \frac{\text{未・工・受 } 62,430}{\text{未・工・支}} \quad \therefore \text{③未・工・支} = 83,240$$

$$\text{流・負・比 } 1.3825 = \frac{\text{流・負 } 112,200 - \text{未・工・受}}{\text{自・資 } 36,000} \quad \therefore \text{②未・工・受} = 62,430$$

$$\text{固・比 } 0.48 = \frac{\text{固・資 } 17,280}{\text{自・資}} \quad \therefore \text{①自・資} = 36,000$$

$$\text{金・負・能 } 3.84 = \frac{\text{営・利 } 3,554 + \text{受・利・配 } 286}{\text{支・利}} \quad \therefore \text{④支・利} = 1,000$$

$$\text{負・回・期 } 8.5 = \frac{\text{負債}}{\text{完・工 } 204,000 \div 12} \quad \therefore \text{⑥負債} = 144,500$$

$$\text{支・勘・回・率 } 5.1 = \frac{\text{完・工 } 204,000}{\text{支・手 } 15,430 + \text{B}} \quad \therefore \text{⑩B} = 24,570$$

$$\text{純・支・利・率 } 0.0035 = \frac{\text{支・利 } 1,000 - \text{受・利・配 } 286}{\text{完・工}} \quad \therefore \text{⑤完・工} = 204,000$$

$$\text{自・資・経・率 } 0.0755 = \frac{\text{経・利}}{\text{自・資 } 36,000} \quad \therefore \text{⑬経・利} = 2,718$$

$$\text{経・資・営・率 } 0.02 = \frac{\text{営・利 } 3,554}{\text{経・資}} \quad \therefore \text{⑮経・資} = 177,700$$

⑦総資本 = 負債 144,500 + 自己資本 36,000 = 180,500

⑧流・資 = 差し引きで 163,220

⑨A = 差し引きで 53,750

⑫C = 差し引きで 191,004

⑭D = 差し引きで 223

第 4 問

付加価値 = 企業が新たに生み出した価値

建設業では控除法で計算 → $\text{完成工事高} - \frac{(\text{材料} + \text{労務外注費} + \text{外注費})}{\text{前給付費用}}$

生産性分析は主要比率表の 8 つの指標を確実に覚える！！

建設業の慣行的な区分における変動費：完成工事原価 + 支払利息を除いた営業外費用 - 営業外収益

建設業の慣行的な区分における固定費：販売費及び一般管理費 + 支払利息

$$\text{変動費率} = \frac{\text{変動費}}{\text{完成工事高}}$$

$$\text{限界利益率} = 1 - \text{変動費率}$$

$$\text{損益分岐点完成工事高} = \frac{\text{固定費}}{\text{限界利益率}}$$

または、

$$\text{建設業の慣行的な変動費と固定費を前提とした損益分岐点比率} = \frac{\text{販売費及び一般管理費} + \text{支払利息}}{\text{完成工事総利益} + \text{営業外損益} + \text{支払利息}}$$

$$\text{損益分岐点完成工事高} = \text{完成工事高} \times \text{上記で求めた損益分岐点比率}$$

第5問

諸比率の覚え方

$$\sim \text{負債比率} = \frac{\sim \text{負債}}{\text{自己資本}}$$

$$\sim \text{月数、} \sim \text{月商倍率、} \sim \text{回転期間} = \frac{\sim}{\text{完成工事高} \div 12}$$

$$\sim \text{回転率} = \frac{\text{完成工事高}}{\sim}$$

重要

収益性：総資本事業利益率、経営資本営業利益率、自己資本当期純利益率

流動性：当座比率、立替工事高比率、未成工事収支比率

健全性：金利負担能力、固定比率、固定長期適合比率